セレンデイピテイについて思うこと

（梅田富雄 2011:8:9）

何か投稿するようにとの依頼を受けたまま、気にはしていましたが、中々アイデアが思い浮かばず、またもや、アイデアに関連したかたい内容でご容赦してもらうことにます。
セレンデイピテイに関する記事を読んでいて、日頃に生活体験の中で、素晴らしいアイデアがどんな機会に、どんな処で生まれるか、思い出してみました。
先ず記事の紹介をします。
（セレンデイピテイとは、研究社英和中辞典:思わぬものを偶然に発見する才能(能力)のこと）

5 Ways to Put Serendipity in Your Life　By Laura Vanderkam | August 2, 2011

Laura Vanderkam, a New York City-based journalist, is the author of *168 Hours: You Have More Time Than You Think*. Laura is also the author of *Grindhopping: Build a Rewarding Career Without Paying Your Dues*, which the *New York Post* selected as one of four notable career books of 2007. She is a member of the *USA Today* board of contributors, and her work has also appeared in *The Wall Street Journal*, *Scientific American*, *Reader's Digest*, *City Journal*, *Whole Living*, *Good* and other publications.

内容は下記の通り：

1. Read a newspaper.　新聞を読む

2. Visit the library.　図書館に行く

3. Buy a magazine you'd never subscribe to.定期購読以外の雑誌を買う

4. Take a tour of a local attraction　興味のある場所に旅行する.

5. Say yes to random social invitations.　突然の依頼に応える

自分の日常生活の中で、ちょっとした論文を書いているとき、研究テーマを模索しているときなど、セレンデイピテイが関係していると思います。一日中、パソコンの前にいて、関連の仕事をしていて、運動不足を解消すべく、バスに乗って千葉商科大の図書館や駅の方へ足を延ばしたり、近くの池に散歩に出たりしていますが、そんなとき、我ながらすばらしいと思うアイデアが浮かぶことがあります．なぜ浮かんだのだろうか？　と　色々思いを巡らすと、いつも頭の中に会って気懸りになっていること、と　関係が深いようです。

上の紹介記事に対して、4.5 は関係がなく、次のような点は共通しているように思います：
・新聞を読んでいて、参考になることがあれば切り抜いている。
・千葉商大図書館に定期的に行く。
・時折、コンビニで雑誌を衝動買いする。
特に、経営関連（ほかの社会科学系）の小論文の場合にはフレームワークをうまく設定できれば色々の展開が可能になりますので、2 つの因子を使い単純なマトリックスなどで表わすことが有益であると思います。この様なフレームワークはバスの中などでよく見つけ出した経験があります。この様なことの背景には、全体像をどのように捉えるか、について、絶えず関心を持っていることがあるかもしれません。卒業後のプロセス設計の仕事をしていて、合理的な方法論の基盤にシステムズアプローチを取り入れることができたことがその後の人生にいろいろと役に立ってきたように思います。
最近は、原発事故の結果、再生可能エネルギーに関心が集まっていますが、自然の中で見出されるエネルギーシステムをコントロール可能にすることは人工システムのコントロールよりも不確実性が高く、多くの困難が伴うはずであると思います。こんな折、書庫を整理していて、Churchman “ Systems and its enemies という本を見つけ出しました。どこまでも広げられる点でシステム境界の設定が困難である点が源に存在していることを改めて認識させられました。ここでの enemies は全体思考の合理性に関わる敵対的なもので、政治、モラール、宗教、そして美学を取り上げています。システムズアプローチは、合理的なプローチとされる点が特徴であり、その敵は、確かにシステム論を展開するときには主観的なものとして排除したいことです。どんな時に有益な思いつきができるか、セレンデイピテイに関係しており、システムズアプローチでは答えが出せないことであると思います。

関心を持ったり、当事者意識を持つことで、種々の事柄が相互に結びつく可能性が高いことはどうも事実のように感じられますが、やや広範囲のことに関心を持って色々調べたり、まとめたりする、いわば、気楽に知的好奇心を満たしていると、雑多な本が多数溜まり続け、不都合なことがしばしば起こり、ワイフから苦言を呈されている今日です。

(追記)　最近、偶然、八重洲地下街の古書店で「セレンデイピテイの探究」と題する本を見つけました。学術的な展開を幅広く行っており、興味深い本です。参考まで。